



栃木県市町村保健師業務研究会

保健師だより

発行

栃木県市町村保健師業務研究会

平成28年3月1日

第9号

会長挨拶

栃木県市町村保健師業務研究会会長 岡崎 浩子（足利市）

会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、年末に日本看護協会の橋本結花氏の講演を聞く機会がありましたので内容をご紹介します。

講演では、『保健師は、国家資格をもったプロであり、健康という側面から住民力を引き出し、埋もれている社会資源を生かすことのできるプロフェッショナルとして市民が満足できるように、常に保健師力をアップさせる必要がある。保健師力は、コミュニケーション能力や人を診る目があることが基本である。そして健康課題の解決には、目標に向かって関係機関や他職種との有機的な連携を推進するために保健師力なしには成果は得られない。また、保健師活動に課せられているさまざまな課題は、毎年のように法改正が行われ、様々な制度の変革により多様化し、業務量も年々増加の一途をたどっている。このような中、平成25年に「保健師活動指針」の見直しが行われたが、保健師を取り巻く環境は変わっても、「地域をみる・つなぐ・動かす」「健康課題への予防的介入の重視」「地区活動に立脚した活動の展開」という保健師活動の3つの本質は、変わっていない。そして、この保健師活動を展開するためには、専門職として常に成長していく必要がある。漫然と事業を実施するのではなく、地域の変化に気づき、健康課題を分析し、スクラップアンドビルドの考え方で事業を見直し、常に住民のニーズに合った保健活動がされているかをPDCAサイクルで確認していくことが重要である。講演の最後に、保健師が行う「予防活動」は「先見の明をもった」希望の先買いである。すぐに効果が現れなくても、市民の健康を守るための活動であることをぶれずに持ち続けることが重要である。』との言葉で結ばれました。

保健師活動は、すぐに評価されるものでなく、結果が出るまでに時間がかかり疲れ果ててしまうことも多々あります。本会は、頑張っている保健師の活力になれるような活動ができるよう取り組んでいきたいと考えております。今後も会員の皆様のアイディアとご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



《調査研究班》

調査研究班 山田 則子（那須町）

本会のスローガンにおいても、厚生労働省の指針等でも、「地域保健対策の上で、ソーシャルキャピタルの醸成・活用によって、地域における自助・共助の支援、地域の特性を生かした健康なまちづくりの推進を図ること」と、ソーシャルキャピタルの重要性が明示されています。

また、本会では平成16年に「地区組織の育成・活用に関する調査」を実施していますが、分散配置が進み地区組織に関わる保健師が少なくなっている中、10年後、20年後を見据えた健康なまちづくりの成功には、ソーシャルキャピタルの醸成・活用は不可欠となっています。

そこで、調査研究班では、前調査から10年たった現在、地区組織に関わる保健師の現状を知り、地区組織との協働した地域づくりに積極的に関わられるような保健師活動の推進に寄与することを目的に、平成27、28年度の2年間にわたり、「保健師の地区組織の育成・支援に関する調査研究」に取り組むことになりました。すでに会員の皆様にはアンケートに協力いただいたところですが、今後分析等を実施し、県内市町の現地実態調査を進めてまいりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

《研修・広報班》

研修広報班 福原 円（小山市）

研修・広報班では、県内市町保健師の資質の向上を目指すとともに、会員の皆様がいきいきと保健師活動を実践していただけるよう、毎年研修会を企画しています。

今年度は、保健師活動のコアともいうべき地域保健活動をテーマとした第1回研修会にはじまり、子育てする親への支援、災害時の保健師活動と幅広くテーマを設定しました。

特に第3回の災害時の保健師活動を題材とした映画上映については、より多くの方に参加していただきたいと、初の試みとして午後と夜間の2部構成にしましたところ、大変多くの皆様のご参加をいただき、心より感謝申し上げます。

次年度も皆様に参加して良かったと思っていただける研修会となるよう、役員一同頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎第1回研修会（平成27年5月22日）



第1回研修会は、「地域において、今、保健師に求められること～地域保健の視点をもって活動するため」と題して、神奈川県知事特別顧問（元国際医療福祉大学大学院 副大学院長）久常節子氏より、講話をいただきました。

まずはじめに、保健師活動について、人生の半分以上を保健師として生きてこられた先生の経験から、職場が楽しく毎日の仕事を

面白くすることが一番重要と話されました。

そして、現在の仕事である神奈川県での生活習慣病対策のモデル事業を紹介され、地域を見るとき、地区診断からではなく、一つ一つの事例（活動）を通して問題点を見出すことの大切さや、訪問活動を例に住民を動かすのは保健師の熱意であることを熱く語られ、更には地域の医療費と保健師体制の現状から保健師の増員について首長に提言し、政策にまで結びつけたということでした。

また、市町保健師活動について、活動を発展させたいと思っても日々の業務に追われなかなか見えてこない現状を打開するには、統括保健師をつくり、保健師全員で活動方針・方法を考えられる仕組み作りをすることが大切とのことでした。業務分担になっていても、月1回全員で振り返り報告会を持つことで、1人の保健師の問題だったことが共通の問題となり、その対策を皆で考えることで、地域の問題が見えてくる。何かやろうと思った保健師がいたら、皆でやってみる。1つ入り口を見つけて、それを深めていくことが大事。また、職場を変えるには情熱が必要、時には非常識や怒りも大事とも話されました。

先生の思いのこもったお話を聞いて、参加者からは「元気とパワーをもらえた。」「日頃の業務に活かしていきたい内容が満載で、できれば保健師全員で聞きたかった。」など、たくさんの感想・意見が寄せられ、満足度の高い研修になりました。



◎県南ブロック共催研修会 (平成27年6月17日)

昨年度に引き続き、栃木県市町村保健師業務研究会と県南健康福祉センター管内保健師業務研究会との共催で研修会を実施しました。

今年度の研修では『クールな大人の食育について』というテーマで、宇都宮大学農学部教授 吉澤史昭氏より講話をいただきました。



長生きの秘訣やBMIと長生きの関係、運動は本当に体に良いのかといった内容に導入から興味を引き付けられ、参加した会員のみなさんも熱心に先生の講話を聴いていました。また、カロリーについて、炭水化物、脂質、タンパク質といった栄養素や化学調味料の摂取について、ご自身の体験を織り交ぜながら分かりやすく説明していただきました。食品100gあたりの熱量が5kcal未満であれば「0キロカロリー」「ノンカロリー」と表示可能なため、特に500ml入りのペットボトルに砂糖が6g含まれ



ていても「0キロカロリー」と表示できる0カロリーマジックに注意すること、炭水化物抜きダイエットは、低血糖を起こしやすいことを知っておいてほしいとのお話がありました。

子どもへの食育が注目されている中、大人への食育はどうなっているのか、何気なく「カラダに良い」という言葉に騙されてしまっているのではないか、「食」に対する基本的な考え方を栄養学の視点から学ぶことができました。

◎第2回研修会 (平成27年7月22日)

第2回研修会は、「育てにくい子にはわけがある～親に寄り添う支援とは～」と題し、療育塾ドリームタイム 作業療法士 木村順氏より講話をいただきました。

“育てにくい子”とは、適応力（その時、その状況に合わせることができる臨機応変な能力等）が育っていない状態であるため、大人の側の適応力を高めて子どもと関わるのが重要になりますが、遺伝素因が否定できないので、その子の親も特性があることが考えられる。その為、子どもと親の適応力を育むために、子どもと親の特性を把握して、親に子どもの課題をどのように伝えて、どう見通しを立てるかが、支援する側に求められる適応力であるとの事でした。



参加者からは「これから支援をしていくにあたり、親も含めてアセスメントしていき、家族の全体像からよくみていく必要があると感じました。」「自分の理解度を自覚して、保護者に関わっていくことの必要性を学べまし



た。」などの意見がありました。

支援できるよう自分自身の適応力を育みながら、子育てする環境や社会情勢等も把握しながら、保健師活動をする大切さを改めて学ぶ機会となりました。



南万の保健師、保健師を日指す学生の新時代へ

あなたにとって、過ぎ去った出来事ですか？

— 今もう一度、行政保健師の役割と使命を考えよう —



映画



上映会



会

入場無料

<日 時> 平成 27 年 10 月 23 日 (金)

■ 第 1 部 ■ 13:30～受付 14:00～16:00 上映

■ 第 2 部 ■ 17:30～受付 18:00～20:00 上映

<場 所> パルティと志賀女共同創価センター 302 会議室

〒320-0671 栃木県宇都宮市野沢町4番地1

「1000 年後の未来へ - 3. 11 保健師たちの証言 -」

<内容の紹介>

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から 6 年が経ち、「東日本大震災」という大きな出来事がありました。改めてその出来事と考えるための機会を創出したものです。2011 年 3 月、保健師が現場で子どもと被災した大人が被災者を語り、その記憶の残りを記録する活動が盛んに行われました。本上映に登場するの 10 人は被災者であり、救済大司教、そして被災者一歩子としての活動の中心にあり、被災した者を受け入れなければならなかった救済大司教の物語、被災地での仕事を通して、被災者の苦しみを感じ、被災者を受け入れること、そして、1000 年以降という未来の物語から私たちの未来を語り、1000 年後の未来へ何を残さなければ、被災地の保健師たちの証言から、日本の未来者として、人々を育てていく保健師たちの使命を語っています。

(主催：栃木県立宇都宮大学) (協賛：宇都宮市立病院) (協力：宇都宮市立病院)



この会場のいい時間をお過ごしください

TEL 028-622-7248 FAX 028-622-7281 E-mail: hokenkaeru20@u-tokyo.ac.jp

初の試みとして昼の部と夜の部の2部構成とし、市町保健師のみでなく、県の保健師、保健師学生など多くの方に参加していただきました。災害時の保健師活動という共通のテーマではこれからも連携していきたいと感じました。

第3回研修会では、災害時の保健師活動を題材とした映画『1000年後の未来へー3・11保健師たちの証言ー』（都鳥伸也監督作品）の上映会を行いました。この映画は、東日本大震災をきっかけに、「保健師」という仕事を見つめなおし、改めてその役割を考えるための旅の記録でした。1000年に一度といわれる大きな災害時に「保健師」という共通の仕事を持つ仲間がどう対処し、また、どのような教訓を得たのか、保健師活動の原点とは何かを学ぶことができました。

アンケートからは「命を守る仕事＝公衆衛生の原点という言葉が印象的であった。」「保健師活動の基本・姿勢・役割について考えさせられた。」という意見がありました。

9月には栃木県内数か所で大雨による水害があり、自分の地区で災害時の保健師活動を行ったところであったため、より災害時の活動の重要性について考えられたのではないでしょう。



研修会参加支援のご案内

今年度も日本公衆衛生学会などの研修会参加に際し、負担金や旅費の支援を実施しました。次年度においても実施を予定しておりますので、ぜひご活用ください。



編 集 後 記

皆さまは、全国保健師長会のシンボルフラワーをご存じですか？平成 23 年度にリーフレットを改訂するにあたり、保健師活動をイメージしたシンボルフラワーを選定することになり、花言葉が保健師活動やその姿勢を表していることを要件に検討した結果、ハーブの一種である“タイム”が選ばれたそうです。



タイム (シソ科イブキジャコウソウ属)

ギリシャ語の「thymus（勇気）」が由来である「タイム：Thymus（ティムス）」の花言葉は「行動力・勇気・活動的・大きな望み」。めまぐるしい社会情勢の中で、保健師活動も本当に多様化していますが、夢と勇気を持って活動したいものですね。

(研修・広報班役員一同)